

トピックス

100年鋼管を目指して

— “長寿命形無溶剤エポキシ樹脂塗料塗装方法講習会” を実施 —

1. ポイントとなる現場溶接部内面塗装

日本水道鋼管協会では、管材料の耐用年数の長期化に関する需要家の要求など近年のアセットマネジメントの実践に応えるため、さまざまな試験及び検討を行いました。その結果、内面塗装を厚膜化することで100年以上の期待耐用年数を確保できるとの結論に至りました。そのため、工場内面塗装部は現行の膜厚0.3mm以上が0.6mm以上に、現場溶接部の内面塗装については現行のプライマー込の膜厚0.4mm以上が1.0mm以上にするすることで、長寿命形の耐久性能を確保することが可能となりました。また、現場溶接部の塗装は、従来のはけ、へら及びローラなどを用いて手塗りする方法では、溶接ビードを含む塗膜の品質確保が困難であると判断し、試行錯誤の結果、専用塗装工具である“くし形へら”を用いる新しい塗装方法を確立することができました。



くし形へらによる塗装状況

2. 講習会実施までの背景

日本水道協会規格JWWA K157（水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法）の規格改正の事前視察として、水道事業者で構成される規格専門委員に厚膜塗装方法を実際に視察して頂いたところ、委員から“誰でもできるといった塗装方法ではなく塗装の品質を確保する上で、一定の技量をもった塗装工や施工管理者を現場に従事させることを検討する必要があるのではないか”との意見・要望が出ました。そこで、規格専門委員会の意向を受け、施工管理者及び塗装工事に従事される方を対象として日本水道鋼管協会規格WSP 075-2012（長寿命形水道鋼管用無溶剤エポキシ樹脂塗料塗装方法）に記載している厚膜塗装マニュアルの内容なども含め講習会を通じて、品質確保に必要な事項の周知とともにフォローすることにしました。

3. 今後の対応

この講習会の目的は、現場溶接部における長寿命形水道鋼管用無溶剤エポキシ樹脂塗料の厚膜化塗装を正確に理解していただき施工の品質確保を図ることにあります。そのため、水道事業者の皆様が長寿命形塗装をご採用される際には、品質確保のご要望に応えるためにも、特記仕様書に日本水道鋼管協会が行う講習会を受講する旨を記載いただくことをお願いいたします。当協会は、水道管路の長寿命化の実現に対する需要家の皆様の要求に応えるため施工管理者並びに塗装工向けの講習会を継続して行きます。